

平成24年3月 環境省

総合モニタリング計画に基づく水環境の放射性物質モニタリング実施状況

	実施範囲・測定地点	分析内容	実施状況	今後の予定
公共用水域	<p>【実施範囲】 福島県、宮城県、茨城県、栃木県、群馬県の全域及び岩手県、山形県、千葉県の一部</p> <p>【測定地点】 公共用水域（河川、湖沼・水源地、沿岸(水浴場含む)）の環境基準点等</p>	<p>【核種分析】 <試料> 水質、底質、環境試料（土壌）</p> <p><対象核種> 放射性ヨウ素 放射性セシウム 放射性ストロンチウム(一部底質)</p> <p>【空間線量】 各測定地点の近傍</p>	<p>【福島県内】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1回目（9月～10月） 193地点（河川113、湖沼46、沿岸34）において実施（公表済）。 ・ 2回目（11月） 193地点（河川113、湖沼46、沿岸34）において実施（公表済）。 ・ 3回目（1月：分析中） ・ 4回目（3月：実施中） <p>【その他の地域】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1回目 茨城県8月～10月（128地点 公表済） 宮城県10月～11月（138地点 公表済） 栃木県10月（115地点 公表済） 山形県10月（12地点 公表済） 千葉県10月～11月（49地点 公表済） 群馬県11月～12月（69地点 公表済） 岩手県1月（21地点 公表済） ・ 2回目（2月） 宮城県、茨城県、栃木県、群馬県、千葉県において実施（分析中）。 	<p>【24年度】 福島県を中心に、公共用水域の水質、底質、環境試料（土壌、水生生物）のモニタリングを実施予定。</p>

	実施範囲・測定地点	分析内容	実施状況	今後の予定
地下水	<p>【実施範囲】 福島県、宮城県、山形県、茨城県、栃木県、岩手県、群馬県、千葉県全域</p> <p>【測定地点】 各自治体において測定地点（井戸）を選定</p>	<p>【核種分析】 ＜試料＞水質</p> <p>＜対象核種＞ 放射性ヨウ素 放射性セシウム 放射性ストロンチウム（一部）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1回目 宮城県10月（39地点 公表済） 山形県10～11月（41地点 公表済） 福島県10～11月（271地点 公表済） 茨城県10月（44地点 公表済） 栃木県10月（38地点 公表済） ・ 2回目（1～3月） 宮城県、山形県、福島県、茨城県、栃木県、岩手県、群馬県、千葉県において実施中（分析中）。 	<p>【24年度】 福島県を中心に、地下水の水質のモニタリングを実施予定。</p>
海洋環境	<p>【実施範囲】 福島県北部から青森県の沖合</p> <p>【測定地点】 離岸1km、10km、20kmの地点等</p> <p>※化学物質等による海洋環境への影響調査に併せて実施。</p>	<p>【核種分析】 ＜試料＞海水、海底土</p> <p>＜対象核種＞ 放射性セシウム 放射性ストロンチウム（海底土）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1回目（8月下旬～9月上旬） 3測線（宮古、仙台、相馬）の各3測点（離岸1km、10km、20km）において実施（公表済）。 ・ 2回目（12月） 7測線（八戸、宮古、陸前高田、南三陸、石巻、仙台、相馬）の各3測点（離岸1km、10km、20km）及び山田、大槌、釜石、気仙沼の4測点において実施（分析中）。 	<p>【24年度】 福島県北部から青森県の沖合においてモニタリングを実施予定。</p> <p>※測定地点等は文部科学省取りまとめの海洋モニタリングと調整。</p>

平成24年2月
水・大気環境局

河川、湖沼及び海域における放射性セシウムの状況について

1. 汚染の状況

① 水質の状況

これまで実施した約700地点中、直近の調査で1 Bq/L以上検出されたのは7地点であり、最大でも7 Bq/L。

② 底質の状況

・現状

【河川、湖沼】（別紙1～4）

河川、湖沼とも、20km圏内など一部限られた地点において高い数値が見られるが、大半の地点では、概ね2,000Bq/kg程度以下。

【海域（沿岸1～2km）】（別紙5、6）

全体としては、概ね100Bq/kg程度以下と河川、湖沼と比べて低い水準。

・推移（福島県）（別紙7～10）

河川及び海域の底質は減少傾向、湖沼の底質は増加傾向。

2. 今後の対応

1) モニタリングの継続・強化

河川・湖沼、海域における放射性セシウムの状況を把握するため、それぞれの水質、底質について、放射性セシウムのモニタリングを継続するとともに、関係省庁と連携し、水生生物（魚類、甲殻類、貝類、餌生物（プランクトン、水生昆虫）、植物）の放射性物質濃度についても調査。

また、東京湾の水質・底質についても、関係省庁と連携し、継続的なモニタリングを検討。

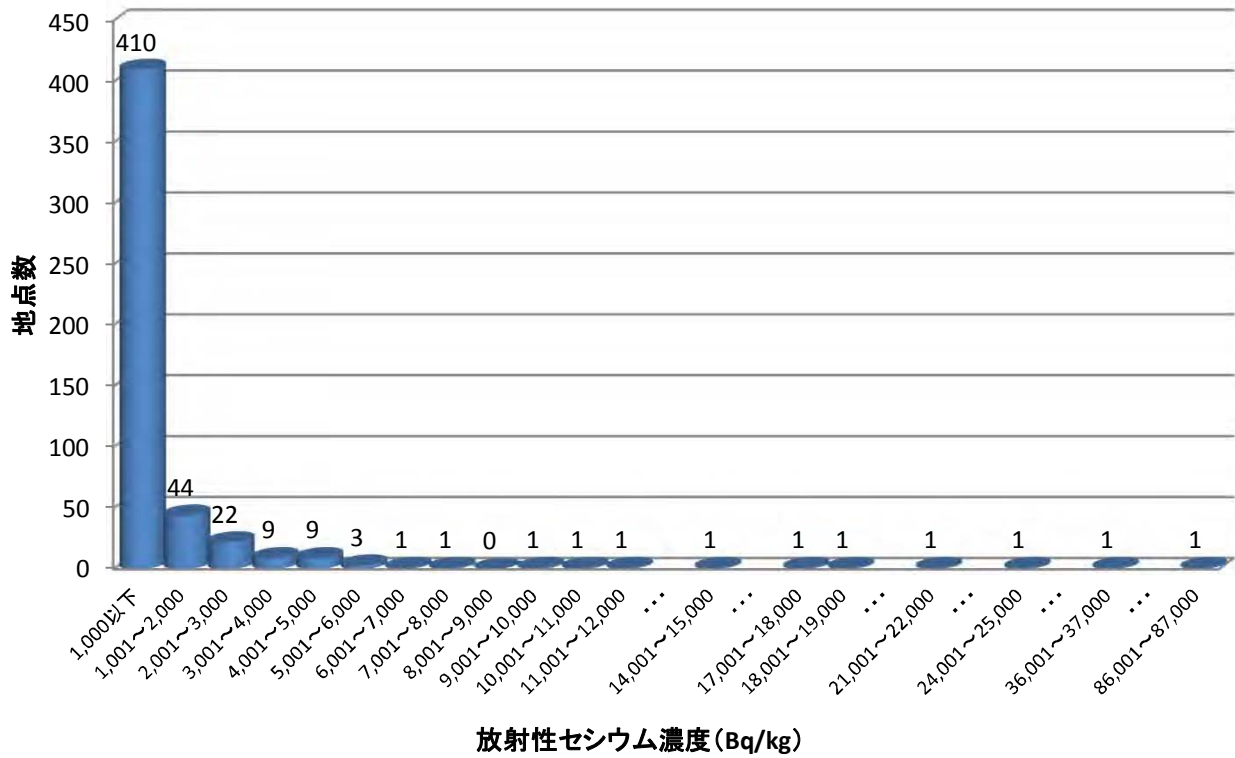
2) 環境中の放射性物質の動態解明

環境中の多媒体（大気・水・土壌・生物・生態系等）での放射性物質等の実態把握・動態解明、モデリング等についての研究を実施。

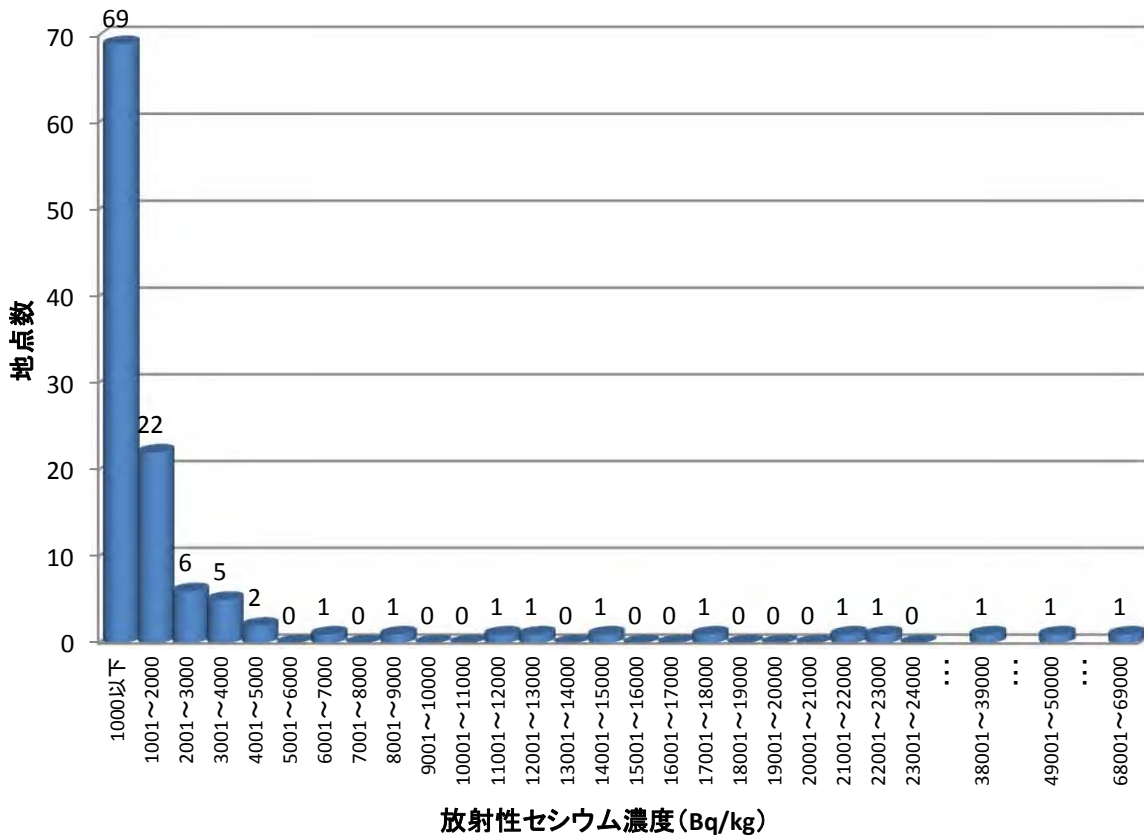
3) 除染の推進

除染対処特措法に基づき、国が除染特別地域の除染、市町村が汚染重点調査地域の除染を着実に実施。

河川(底質)の放射性セシウム濃度ごと(1,000Bq/kg)の頻度



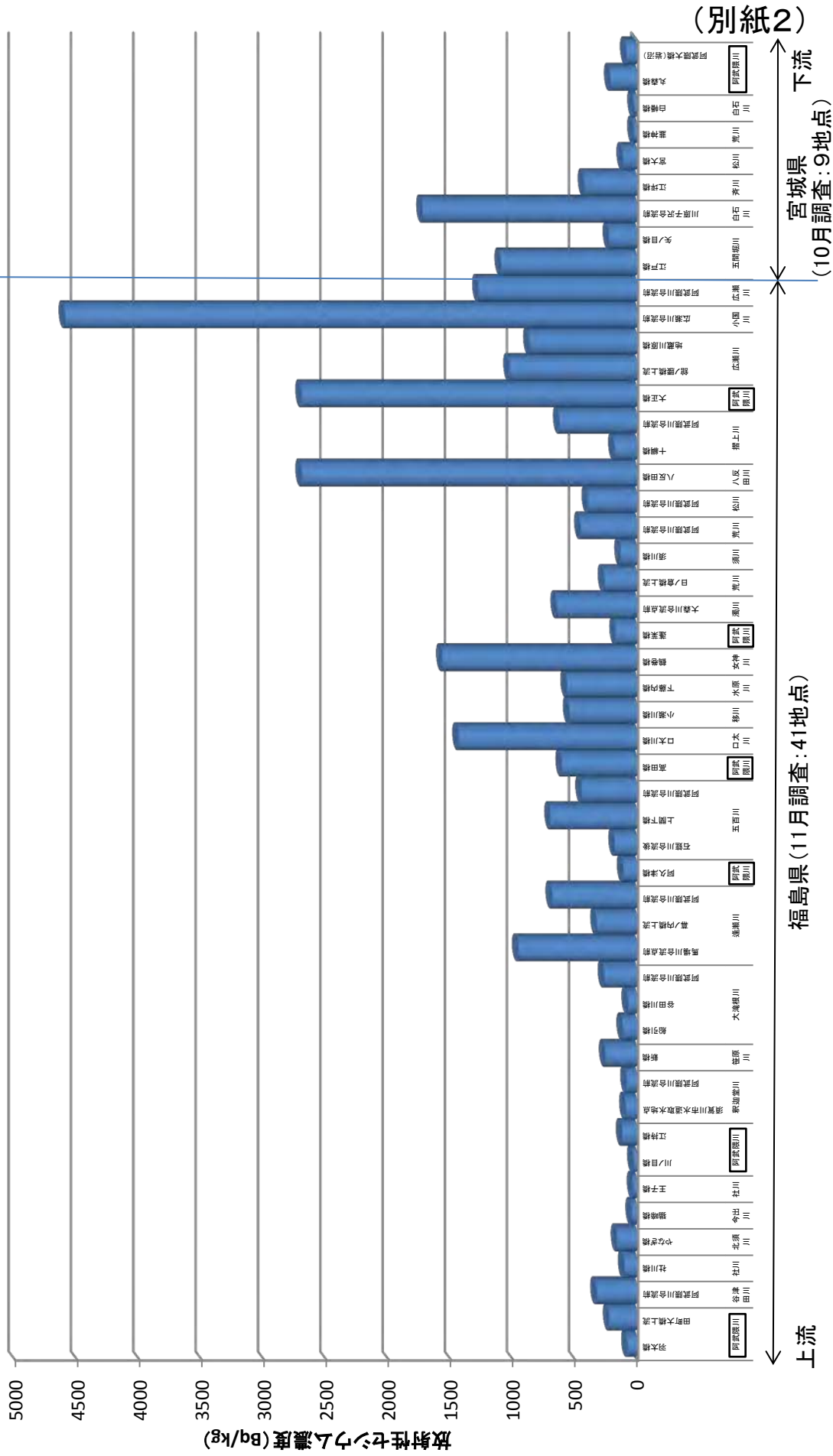
湖沼(底質)の放射性セシウム濃度ごと(1,000Bq/kg)の頻度



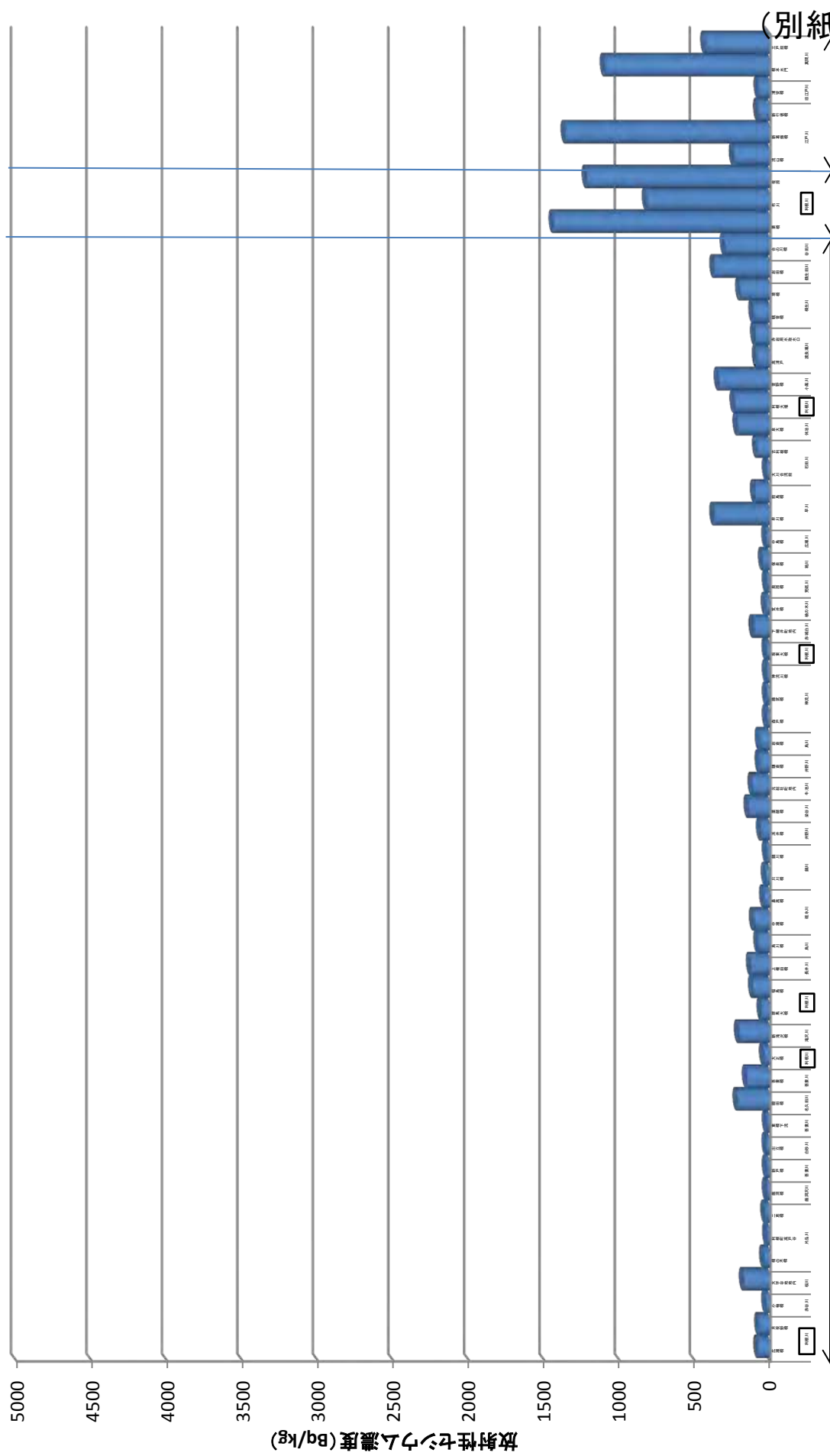
※集計対象

8月末から1月上旬の間に実施した、岩手県、山形県、宮城県、福島県、茨城県、栃木県、群馬県、千葉県における調査のうち、直近の調査結果を集計(地点数:河川509地点、湖沼115地点)。

河川の底質の放射性セシウム濃度 (阿武隈川水系(福島県、宮城県))

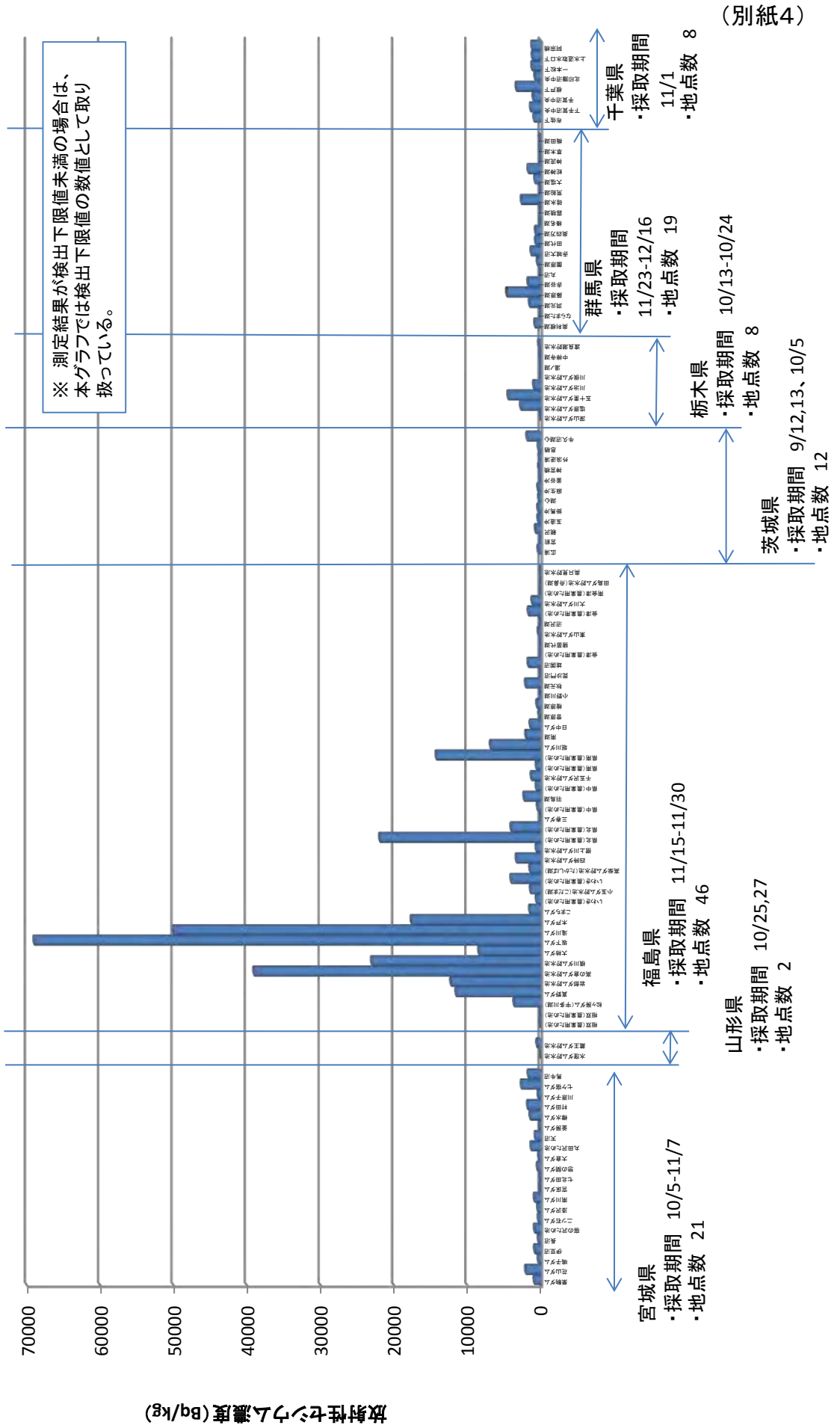


河川の底質の放射性セシウム濃度(利根川水系(群馬県、茨城県、千葉県))



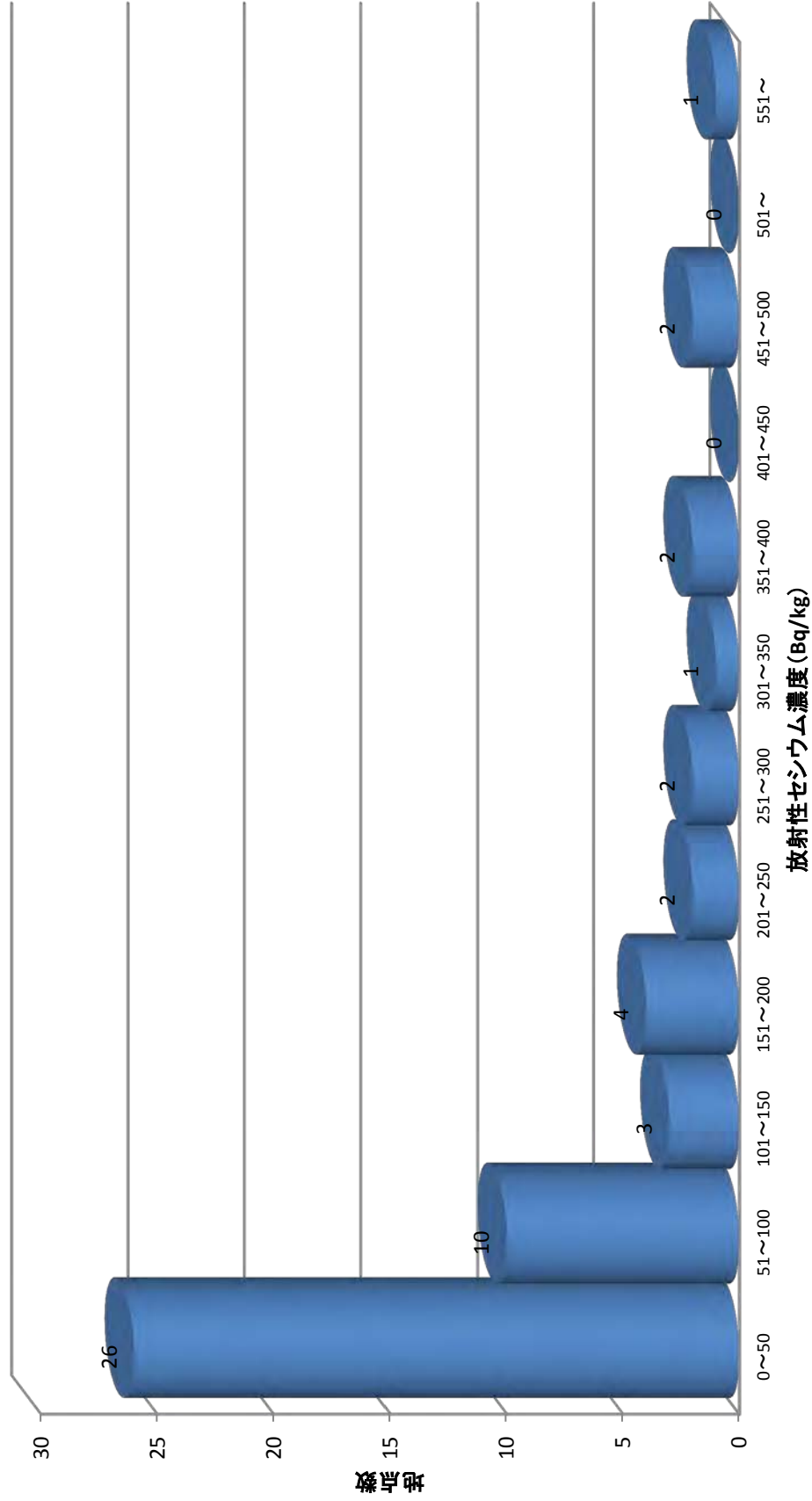
群馬県(11、12月・50地点) 茨城県 千葉県 下流 (別紙3) (9月) (11月)

湖沼の底質の放射性セシウム濃度



(別紙4)

沿岸1～2kmの海域(底質)の放射性セシウム濃度ごと(50Bq/kg)の頻度

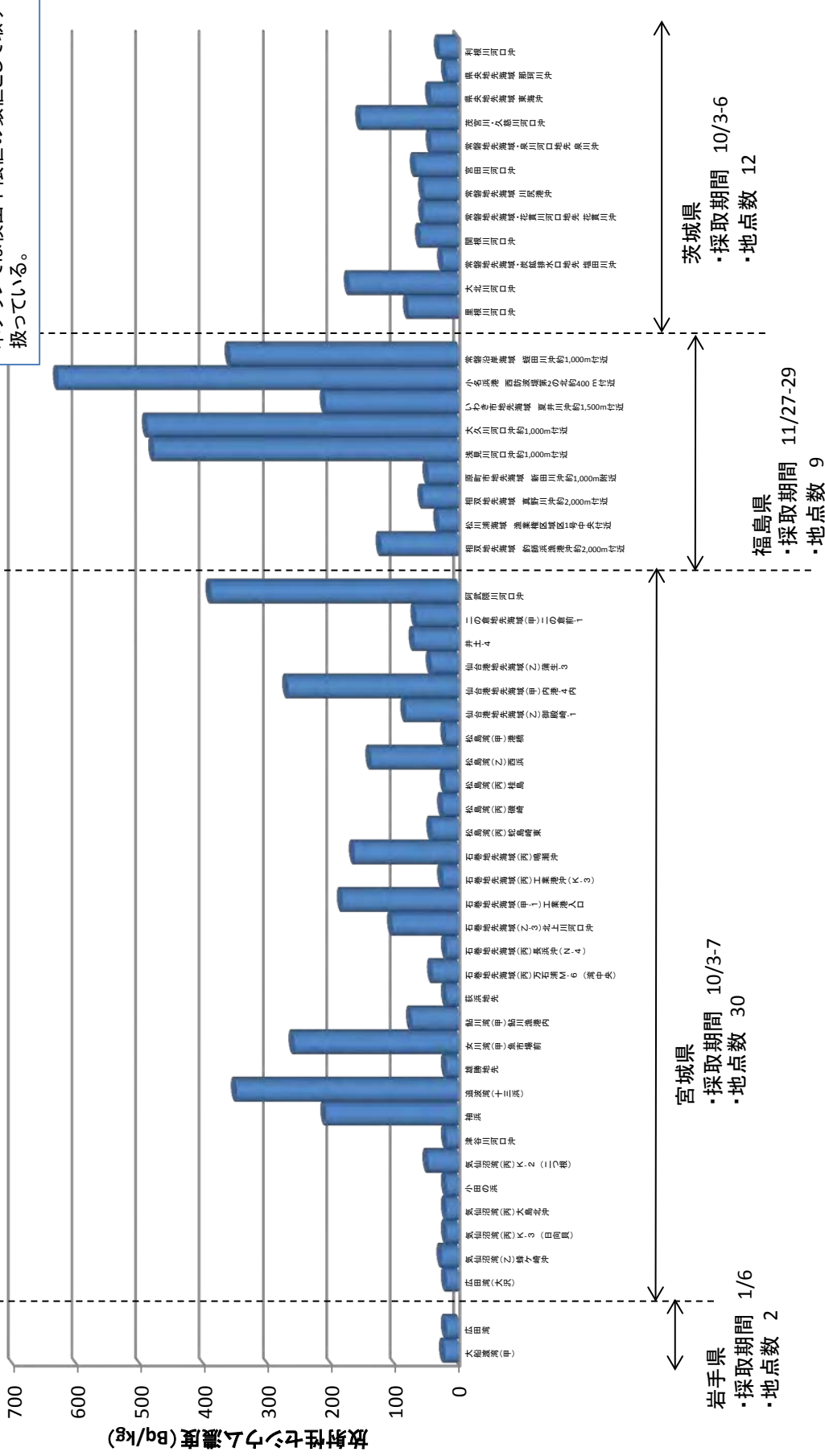


(別紙5)

※集計対象
8月末から1月上旬の間に実施した、岩手県、宮城県、福島県、茨城県における調査のうち、直近の調査結果を集計(地点数:53地点)。

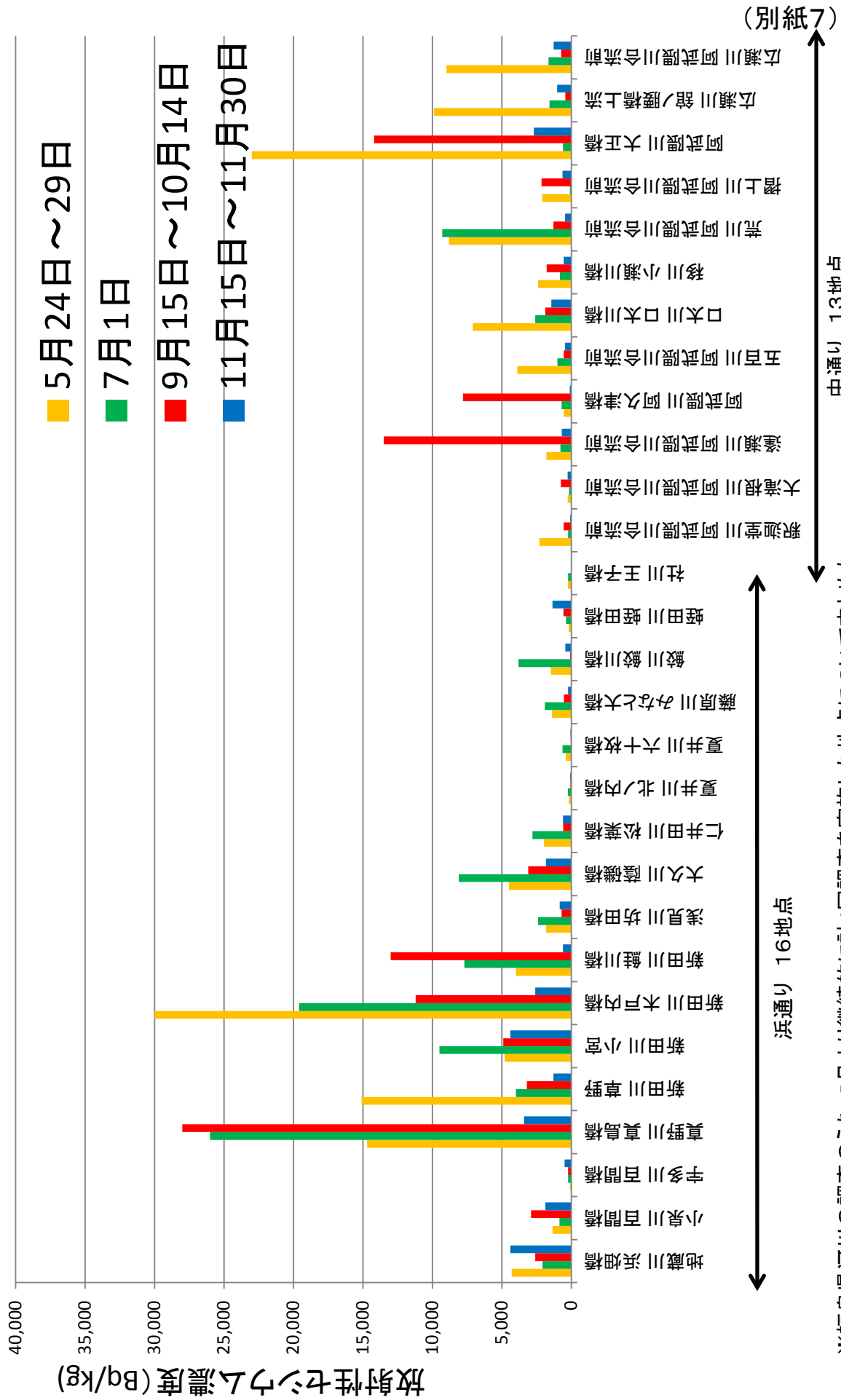
沿岸1～2kmの海域の放射性セシウム濃度

※ 測定結果が検出下限値未満の場合は、本グラフでは検出下限値の数値として取り扱っている。



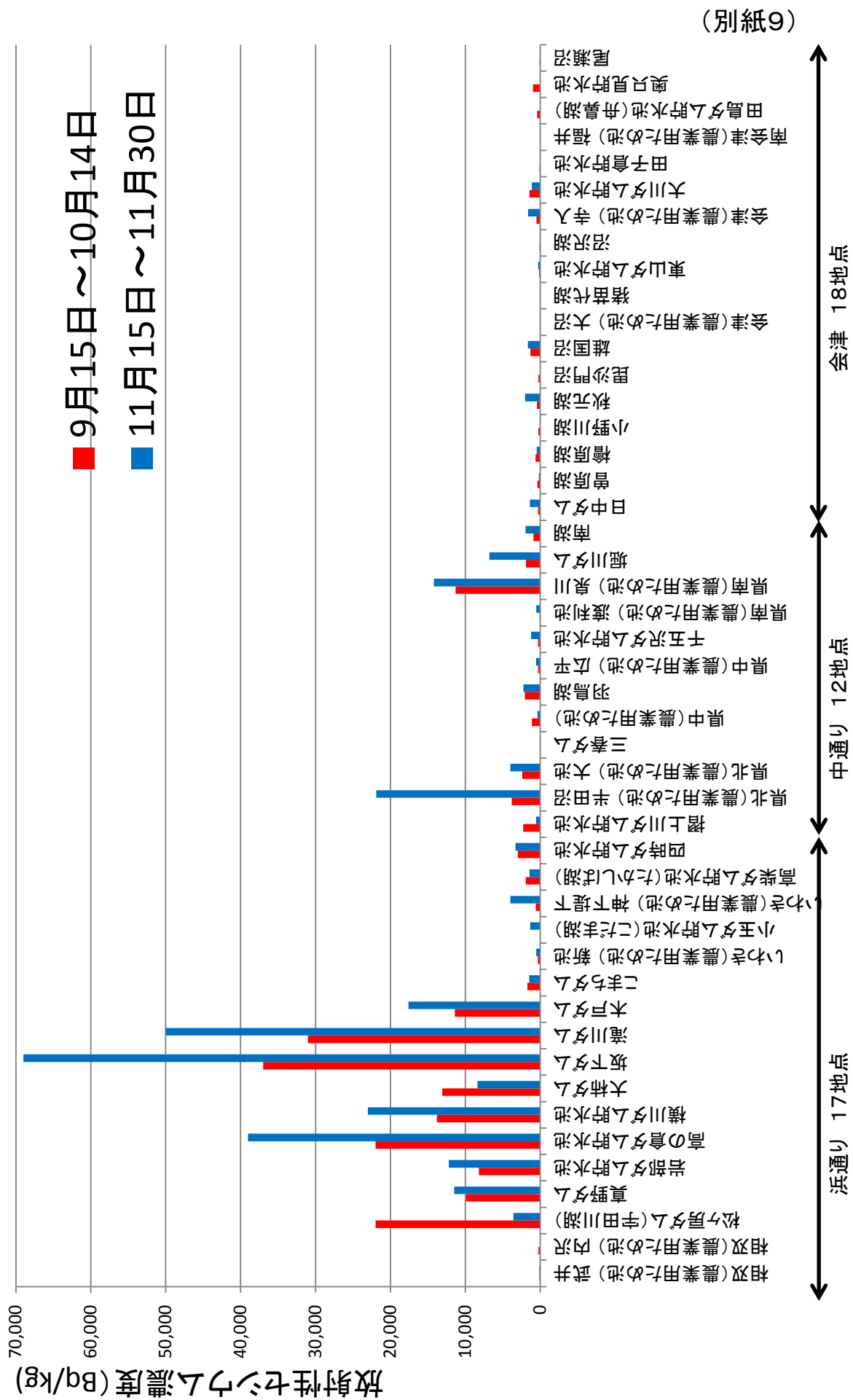
(別紙6)

底質の推移(福島県河川(4回調査地点))

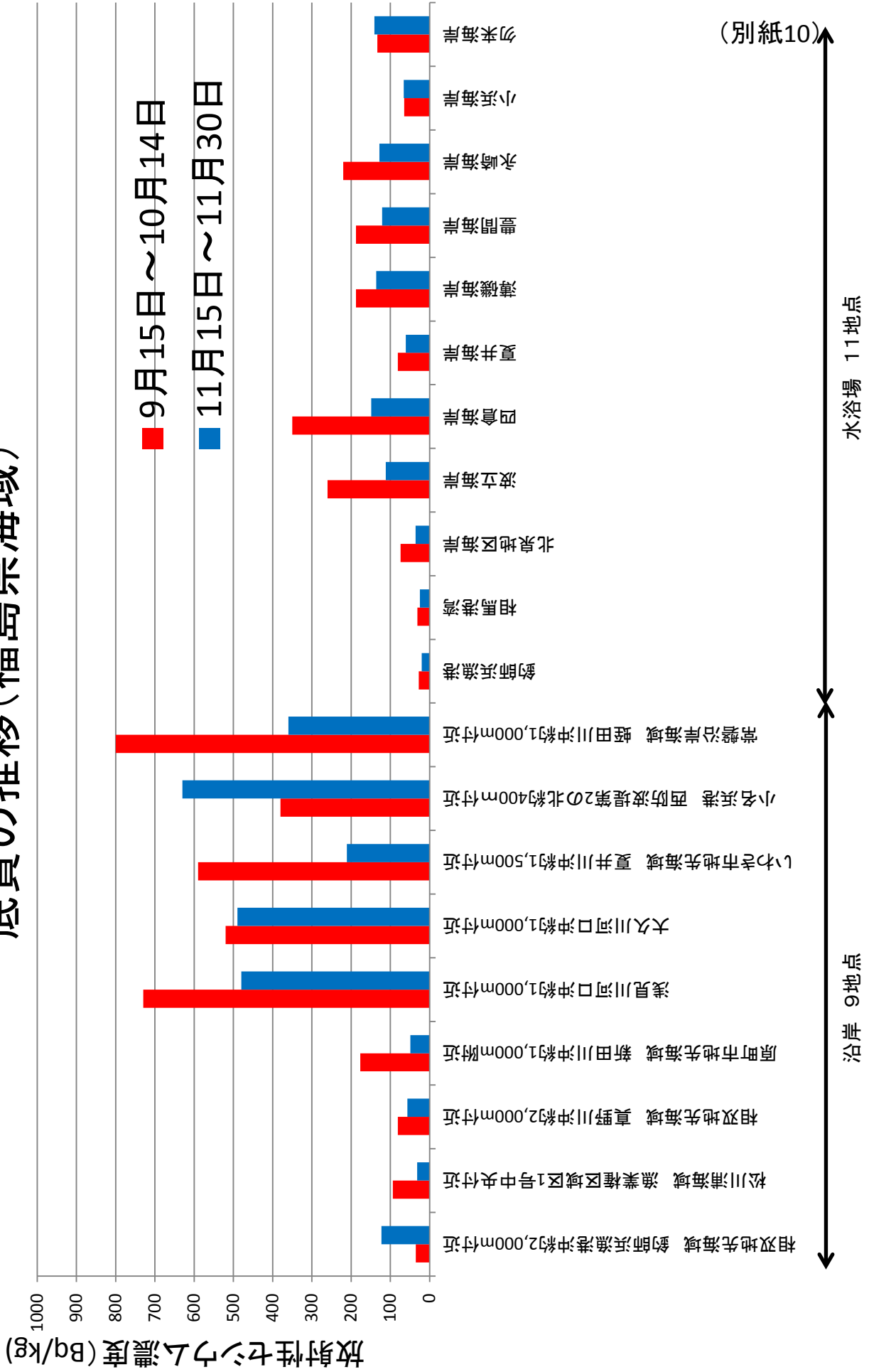


※福島県河川の調査のうち、5月より継続的に計4回調査を実施した地点についてまとめた。

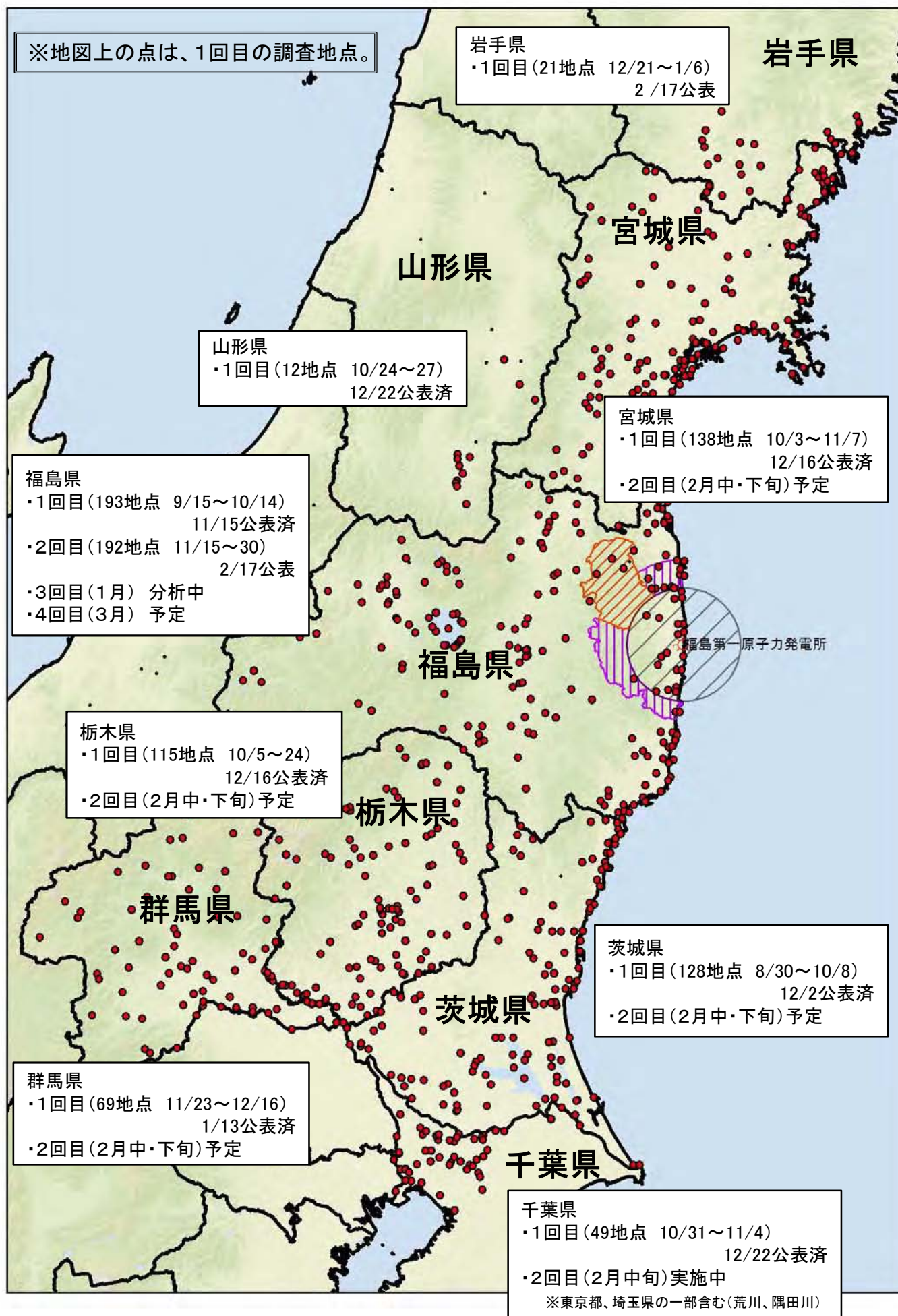
底質の推移(福島県湖沼)



底質の推移 (福島県海域)



○ 公共用水域における放射性物質モニタリングの実施状況(2月17日現在)



東日本大震災による洋上漂流物への対応

現状

- ・東日本大震災に伴い、漁船、木材、コンテナ等のガレキが我が国から流出
- ・航行船舶等からの情報収集等により、航行上特段の支障がない状況を把握

今後の対応

- ・内閣官房総合海洋政策本部事務局取りまとめの下、関係省庁・機関が連携し、
 - ①衛星・航行船舶等からの情報収集等による漂流物の現状調査
 - ②シミュレーションによる漂流物の予測を行うことにより、洋上漂流物に関する情報把握に努めるとともに、以下を行う。
 - ③米国等の関係国・機関との情報共有
 - ④外国に漂着する場合も含めた我が国の更なる対応の検討

今後の対応体制

